第４回地域活動報告会
実 施 報 告 書

稚内北星学園大学
Wakkanai Hokusei Gakuen University

目　　次

ごあいさつ　　稚内北星学園大学　副学長　佐賀　孝博　・・・・　1

１．地域活動報告会概要（講演録）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

２．ポスター報告（報告資料）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

３．アンケート集計結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33

資　　料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47

ごあいさつ

稚内北星学園大学副学長
事業推進責任者　佐　賀　　孝　博

本学は 26 年度の文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）に選定され、「地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備」というタイトルの下、全学的に地域連携活動に取り組んできました。その柱は次の３つです。

① 地域の教育力向上

② 観光まちづくり

③ 中心市街地活性化。

今回の地域活動報告会では、この３つの柱それぞれに関連した取り組みについて活動を行った学生・教員より計３件の口頭報告と本学内に設置した「わくほくメディアラボ」および「学習コンシェルジュ」についてのポスター報告を行いました。本報告会に参加いただいた方への事後アンケート設問「報告会に来てよかったと思いますか。」では、「大変良かった」「良かった」あわせて 73.2%となり、活動内容・発表スタイルについて好評を得ることができました。今後も、大学 COC 事業の目的である「大学での学びを通して地域の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる人材を育成する」の実現に向けて、今回報告した学生・教員はもちろん、大学全体としても、今回の評価を励みにさらに活動を進めていく所存です。

また、本報告会では、実行委員会に学生も加わり、地域活動報告会４回目にして初めて学生が司会進行を行い、大事な役目をしっかりとやり遂げてくれました。この点についてもアンケートで良い評価をいただき、学生の成長を実感できたところです。

本学は大学 COC 事業を通して、これまで以上に学生・教員が地域を見据えた活動を行い、地域活性化の一助になるように今後も活動を行っていきます。学内外の多くの方々から引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

１．地域活動報告会概要（講演録）

地域活動報告会は今回で第４回目。COC 推進委員会では、具体的な実施計画を平成 27 年 11 月 11 日に決定した。その後、教授会への報告、委員会での審議を重ねた。また、今回は初めての試みとして学内公募を実施し、学生の参画を得た。

以上の過程を経て、学生と教職員による「第４回地域活動報告会実行委員会」を組織し、実施に至ったものである。

主　催：稚内北星学園大学

会　場：新館 1301 教室

日　時：平成 28 年１月 26 日（火）14 時 30 分～16 時 10 分

※ 終了後 30 分はポスターセッション

開催の目的

COC 事業の個々の具体的事例を共有し、担当者（教職員・学生）を励ます【H27COC 事業調書（34）記載の成果目標より】

発表形式

口頭発表及びポスター発表とし、口頭発表は、主に学生が参画した調書記載事業から選定、ポスター発表は、上記に漏れたもののほか、個々の学生、学生団体、教職員の研究、教育、社会貢献活動とした。

第４回地域活動報告会実行委員会

（実行委員）武田大貴・石黒志津・鏡山　樹・黒木宏一・寺澤篤史・中川圭太

三浦　猛・向　光宏

（事 務 局）COC 推進委員会事業推進室

＜第１報告：まちなか振興分野＞

〇報告者

中野　窓香（稚内北星学園大学　メディア表現指導員）

若原　幸範（情報メディア学部　准教授）

〇報告題名

「まちなかメディアラボ」から見る中心市街地・商店街

〇報告内容要旨

「まちなかメディアラボ（略称：まちラボ）」は中心市街地における学生の教育および自主的活動の拠点、またメディア表現活動等の市民の活動拠点、さらにこれらを通した中心市街地・商店街活性化の拠点となることを目指して 2015 年４月にオープンした。本報告では第１に、オープン後１年間の「まちラボ」の事業内容を整理し、その成果・課題を報告する。第２に、この間の「まちラボ」の事業を通して見えてきた中心市街地・商店街の課題と展望を考察し、今後「まちラボ」が果たすべき役割について報告する。

＜第２報告：地域観光分野＞

〇報告者

樋口　明日佳

東雲　恭平

MARKOVA KATERINA KONSTANTINOVNA（以上、情報メディア学部情報メディア学科２年）

〇報告題名

造形ワークショップ＆展覧会「Christmas Exhibition 2015」開催報告

〇報告内容要旨

近年、芸術の分野ではアートの持つ創造性を社会に還元する目的で地域イベントやまちづくりなど地域振興や観光産業振興等に活かしている。稚内北星学園大学ではデザインや映像など芸術分野のメディア表現科目も多数開講されており、その教育成果を地域イベントに参画することで発表している。今回は、「マルチメディア表現実習」と「広告制作論」の履修学生が協力し、(株)まちづくり稚内と本学の共同企画「Christmas Exhibition 2015」の作品制作を行った。その計画から制作、展示及び撤収作業までの記録を発表する。

＜第３報告：地域教育分野＞

〇報告者

阿部　浩幸

橋本　　薫（以上、情報メディア学部情報メディア学科４年）

米津　直希（情報メディア学部　講師）

〇報告題名

地域教育支援と教職としての学び

―無料塾、豊富町「学び」の教室 ウィンターチャレンジから―

〇報告内容要旨

地域教育支援室では、教職課程の学生を中心として、地域の学習支援活動を続けている。今冬は、本学のまちなかメディアラボにて、小中学校を対象とした無料塾を始めた。また豊富町で、夏の学習支援に続き、冬期期間中の学習支援『「学び」の教室』も開催された。

本発表ではそれぞれの活動の内容とそこからの学びを学生が発表する。また、それらの活動が、教師教育にとってどのような意味があると考えられるのかについて、教員から報告する。

〇司会（武田氏）　それでは、これより情報メディア学部地域創造学科３年の武田大貴が進めさせていただきます。不慣れではありますが、この会が皆さまにとって有意義なものとなりますよう、進行させていただきます。よろしくお願いいたします。（拍手）

まず初めに、本学 COC の事業推進代表者である斉藤吉広学長よりご挨拶いたします。

〇斉藤学長　こんにちは。今日、学外からお越しの方々、お時間をとっていただいて本当にありがとうございます。また、学内の方、ご苦労さまです。

実は、先般本学の新しいキャッチフレーズというのを学内で募集いたしまして、ただそれほど宣伝していないので、皆さんご存じないかと思いますけれども、２つ選びました。１つが、「地域力×情報力＝稚内北星学園大学」、もう１つが、「この地で知を新たに」、この２人の学生が応募してくれた作品を選んで、２つまとめてもう一回言いますと、「地域力×情報力、この地で知を新たに」。要するに、今回我々がやっている COC 事業に通じるような情報メディアを学びつつも、だけど、それを地域の課題に結びつけて実践的に学んでいくといったことを表しているということで、２つを選ばせていただきました。

今日は、４回目の地域活動報告会ということで、本来、開会目的は大学の活動、とりわけ学生がマチでいろいろとやっていることを皆さんで共有していただいて、ぜひ励ましていただきたいというものです。もちろん、単に褒めてくれということではなくて、いろいろな質問とか、アドバイスも含めて激励していただきたいということで開きます。ですから、この後報告がありますけれども、ぜひ皆さんから見て、市民から見て、もっとこうしたほうがいいのではないか、あるいはあれはよかったみたいな形でご発言いただくと非常に励みになると思います。

もともと COC の課題というのが、３つ柱があって、地域の教育力向上と観光まちづくりと、それから中心市街地の活性化という３つになっています。いろいろやってきていて、今日はその成果を見ていただくわけですけれども、実際に現実的に成果が出ているか、例えば地域の教育力が本当に向上したのか、観光まちづくりが本当に以前よりうまくいっているのか、中心市街地が本当に活性化したのかといったようなことは、まだまだ途中で、はっきりした成果が出ているということではないかもしれませんけれども、こういった場で皆さんと現状を共有して、励まし合う

といったようなことができれば、またさらに今後 COC の活動も進めて、振興というのもより深めていけると思っています。

ぜひ今日は、そのような立場で皆さんにも積極的に参加していただいて、発言もお願いしたいと思っています。今日は、よろしくお願いいたします。(拍手)

○司会（武田氏）　ありがとうございました。

今回の報告会の報告は、口頭発表とポスター発表となっています。これから口頭発表を３つ行います。

第１報告は、稚内北星学園大学メディア表現指導員の中野窓香さんと、情報メディア学部准教授の若原幸範先生より、「まちなかメディアラボから見る中心市街地・商店街」と題して行っていただきます。時間は 20 分です。お願いいたします。

口頭報告

第１報告（まちなか振興分野）

○中野氏　皆さん、こんにちは。稚内北星学園大学メディア表現指導員の中野窓香と申します。本日はよろしくお願いいたします。

私は、中央商店街に位置します、まちなかメディアラボに常駐しています。まちなかメディアラボがどんな施設なのか、また、今年一年どのような利用があったのかを私のほうから報告させていただきます。

まちなかメディアラボはこの COC 事業を開始してから、中心市街地活性化を目的に設置されました。場所は、中央アーケード街の空き店舗を活用していて、香花堂さんの斜め向かい、ノーザンノースさんの向かい側にあります。市民の方も利用していただいているのですが、学生の活動の拠点とすることも目的の１つです。平成 27 年２月、昨年の２月から試行オープンを開始し、昨年の４月 18 日にグランドオープンしました。このグランドオープンにはたくさんの方に来ていただきましてありがとうございます。

では、年間の利用者数なのですけれども、１月まだ途中ですので、昨年４月から 12 月までの利用状況を報告させていただきます。

４月から 12 月までなのですけれども、平日が 132 日、土日が 33 日です。火曜日と日曜日が定休としていて、土曜日と平日の開館時間は違うのですけれども、合わせて 165 日の開館をして、4,155 名の方に利用していただきました。グラフにするとこのような形になって、７月、８月が

明らかに多くなってしまったのは、北門神社祭や南極まつり、マジックのワークショップなど、大型イベントがあったためです。多くの方に利用していただいたイベントを除外してグラフにするとこのようになります。４月中旬からグランドオープンしましたので、開館の日数が少ないのですけれども、夏の利用者さんが多いということがお解りいただけるかと思います。

このデータなのですけれども、曜日別、時間別にも調査をしてみました。調査したところ、平日は 12 時から 19 時の開館時間、土曜日は 10 時から 17 時で、開館時間のずれはあるのですが、大体同じぐらいの利用者の数になっています。土曜日がちょっと多いかなと思うのですけれども、土曜日の利用者さんが多い理由としては、パソコン講座、絵本の読み聞かせや、１月いっぱいで終わったのですけれどもガオシュウ先生がやっている中国語講座などで、土曜日の利用者の数が多くなっています。時間別に見てみると、平日の夕方、17 時から 19 時の間なのですけれども、利用者さんの数はあまり多くないという印象を受けました。

７月 11 日以降に、より細かい利用者さんの利用の仕方とか、具体的な利用方法についての調査を行いました。７月 11 日以降ですので、それ以前のデータはないのですが、それでパーセンテージを出してみたところ、パソコン、会話、あとは打ち合わせ、イベントなどで多くの方が利用されていました。初めに学生の拠点とするという話をしていたのですが、実際に講義などで使われたのは、あまり回数はそんなになかったかなという感じです。その他も多くなっているのですが、その他は休憩だったり、読書だったり、あとは、今は碁会所が閉まったみたいで、囲碁をしにいらっしゃる方もいます。

継続利用についてです。これも４月 11 日以降ですが、約６割の方が３回以上の継続利用をしてくださっています。ですので、トータルした中にも結構同じ方がカウントされているのですが、ちょっとずつまちラボに何度も来ていただくという方がふえていることがわかりました。

まちラボでは、通常開館のときは個別にパソコンの相談に応じたり、本が読めたりだとか、そういったことができるだけではなく、ここに例を挙げたのですが、絵本の読み聞かせや写真展、パソコン講座など、さまざまなイベントも行っています。

その様子を見ていただこうと思って、写真を用意しました。

これは、絵本の読み聞かせです。大学図書館の細田さんと、市立図書館の職員さんに来ていただいたりして、絵本の読み聞かせを行っています。この絵本の読み聞かせは、普通の絵本とかだけではなく、大型絵本や紙芝居やガオシュウ先生が英語の絵本の読み聞かせを行ってくれたこともありました。

あとは、写真展ですね。５月に稚内市出身の大橋英児さんという方が、写真展をまちラボで行ってくれていました。

あとは、パソコン講座ですね。安藤先生やガオ先生がパソコン講座を行ってくれており、学外の方にはお配りしたのですが、10 月からも毎月１回から２回程度パソコン講座を定期的に行っています。

これは、講義の様子です。藤崎先生の講義で、瀬戸邸に行くという講義があったので、そのときにたくさんの学生に使っていただきました。

あとは勉強会、これはつい先日なのですけれども、インバウンドの勉強会を行うということで、市民の方も来て、勉強会なども行っています。

あとは、教職ゼミの学生たちが毎週火曜日に無料塾を行ってくれているというので、学生たちの活動も行われています。

あとは、地域イベントですね。学生たちが主体となって、このときは白夜祭のときなのですけれども、商店街のイベントに合わせたり、地域のイベントに合わせたりして、まちラボでもイベントを行うというので、このときは屋台を出したり、あとは、まちラボ内で父の日のカードづくりを行ったりもしていました。

簡単な説明になってしまったので、詳しくはポスター発表の報告のほうにも載っていますので、ぜひそちらをごらんください。

今年度の反省と来年度に向けてなのですが、まず、開館日、開館時間の見直しです。

夜間の時間帯の利用、平日の 17 時から 19 時までの夕方の時間帯の利用者さんは少ないですが、商店街のお店の中でも早目に閉めてしまうところがあったりだとかするので、せっかく大学の施設が商店街にありますし、夜もあけていたいという願いもあるので、そこをどうしていくか。あとは、その夕方の時間に利用してもらう。今考えているのは、仕事終わりの方にどのように利用していただいたらいいかというのを検討しているところです。

２つ目、本来の目的の達成に向けてなのですけれども、学生活動の拠点ということだったのですが、今学生が利用したりする回数がなかなかなかったり、中央まで行くという機会がなかなかなかったりするので、例えばバスを出すだとか、学生たちも来やすいような工夫も必要だなと思っています。

３つ目の幅広い世代に利用していただくためになのですが、周知はもちろんですけれども、ターゲットを絞った企画など、今 50 代以上の方の利用が大半ですので、そういった方ももちろんですが、20 代、30 代の方も利用していただくためには、そこにピンポイントを絞ったイベントづくりなども必要だと思っています。

４つ目の関係者の方にも多く利用してもらいたいというのは私の願いなのですが、講義で活用してもらうことや、あとは大学がどんなところかを市民の方に知ってもらうチャンスだと思って

いますので、大学の外に出て、地域の方との交流が今後もっと生まれていけばいいかなと思っています。

簡単でしたが、平成 27 年度のまちなかメディアラボの利用者の状況の発表を終わります。この後、まちなか振興支援室長の若原先生より商店街との関係の発表をしていただきます。

○若原氏　こんにちは。続きまして、まちなか振興支援室長をしております若原から報告させいただきます。

私の担当分では、このような内容でお話しさせていただきます。この間、約１年ほどですけれども、まちラボの実際の目を通して見えてきた中心市街地といいますよりは、商店街の方々や運営について中心的に考察するということ。その上で、今後、私たちのまちラボが果たす役割についてご報告するということで、進めさせていただきます。

話の入り口としまして、この間、実際にまちラボを、商店街の中で運営してみて感じてきたことからお話しすべきですが、時間もありませんので、具体的なエピソードは省略させていただきまして、結論的に、この間我々が強く感じていることを１点だけお話ししておきたいと思います。

まちラボを始める前に、中央商店街がかなり厳しい状況になっているということは頭では理解しておりましたけれども、実際、中央商店街にまちラボを構えてみて、予想以上にかなり厳しい状況にあるといったことを実感として感じてきたところです。我々としても、急いで、何か手を打たなければと考え、問題意識を強くしたところです。

それから、もう一方で、実際に買い物をするお客さん以上に、中央商店街のことを大切に思っている市民は多いと、実感として感じております。例えばですけれども、私たちの大学の学生たちに、実際に商店街で買い物をすることがありますかと聞いたら、残念ながらほとんどの学生は買い物をしないと言うのですけれども、ただ一方で、商店街が地域になくてもよいですかというと、そうは思わない。地域によって商店街は大切である、必要であるというふうに考えていると聞くのですね。このギャップが何なのかといったところをちょっと不思議に感じているところが当初ありましたので、最初にお話をしたいと思いました。

ここでは、実際このように感じていた現象がどうして起こっているのか、それが何を意味するのかといったことを少し理論的にお話しさせていただきたいと思います。

その手がかりとして、最初に先行研究から、そもそも商店街とはどういう理念を持っているのか、商店街にはどういう機能があるのか。稚内の商店街ということではなくて、日本全国の商店街にこういう機能があり期待されているといったことを紹介しておきたいと思います。時間があ

りませんので簡潔にいきたいと思いますけれども、３つの機能があるというふうに言われております。

１つは、商店街というのは、個々の店が専門特化することによって、地域の人たちに対してより高度な商業機会を提供する。また、専門店が１つの場所に集まっていることによって、地域の人からすれば、身近なところにデパートなり、百貨店のような高度な商業空間が作られると、そういった機能が期待されていると言われています。

２つ目は、個々の商店街のお店は家族経営を基本とした小規模経営ですので、単体では力が弱い。したがって、組織化、連携することによって、全体の安定化を図っていくことが期待されている。

それから３つ目が、これはよく見逃されがちなポイントだと思うのですけれども、地域の人々が集う地元の身近な公共空間、要は地域の人たちが普段たまり場として利用するだとか、安心して自分の場所として感じられるような居場所として、商店街に出てくる考えということです。

この機能に関しましては、最近ふえている郊外の大型店などでは担いにくいものですので、商店街独自の機能といっていいかと思います。この３つ目の機能が、先ほど言いました実際に買い物はしないけれども、地域にとって商店街が必要であるというふうに考える根拠になっているのではないかなというふうに考えています。いずれにしましても、このように考えるとすれば、商店街が衰退するということは、この３つの機能が低下するということであり、逆に、商店街を再生するということは、この３つの機能を回復させていくことにほかならないと考えられます。

それと、商店街が衰退することの意味を考えてみると、このようになると。あえて、括弧で一般論と書きましたので、これに書いて整理したスライドに関しては、稚内のことを言っているのではなく、全国的な傾向として先行研究の中で言われていることとご理解ください。

ちょっとまた時間がありませんので、スライドに出して紹介するだけにしたいと思いますけれども、およそ、この３つの機能が失われていること、低下していくことによって、何がその場で起こっているのかといったことを整理すると、このようなことが言えます。

若干紹介すると、１つ目に関しては、個店の力が低下していると。２つ目に関しては、組織の力が低下している。３つ目に関しては、空間としての魅力、地域にとっての魅力、コミュニティーとしての魅力、これが低下していると考えられます。

これはあくまでも一般論ですけれども、実際先ほど実感として申し上げたとおり、稚内の中央商店街が衰退しているのであれば、何らかの形で、こんなものとは限りませんけれども、何らかの形で稚内の中央商店街でもこういった現象が起こっているのであろうと考えざるを得ないとも言えます。

そうすると、この問題点を踏まえて中央商店街を再生するというときには、こういった方向性が必要であり、２点に整理しておきたいと思います。

まず、大文字のＡのほうですけれども、先ほど一般論としてきました中央商店街の衰退現象ですね。これは中央商店街に属したＡは、どのように固有の現象として発生しているのか、その課題と、課題が発生する要因ですね、これを明らかにして、当事者である商店街の関係者、我々もですが、それを意識化、あるいは共有化することが必要であるということです。このときには、その四角の中に書いてありますが、先ほども一般論としての衰退現象を踏まえつつ中央商店街の内在的な、と書きましたけれども、これはみずから調査なり、評価することによって、明らかにする必要があると。赤字になっていますけれども、自己調査、自己評価を行うことが必要であろうということです。このとき、あえて書かせていただきましたけれども、この作業は、相当に自己批判を含まざるを得ませんので、かなり痛みを伴うといいますか、かなり厳しい作業にはなると思うのですけれども、ただ、ここを避けては、実際の根本的原因がつかめませんので、やはり取り組まなければならないと思います。これが１つ目です。

それからＢのほう、２つ目に関しましては、これは先ほど申し上げたことです。商店街の再生の基本方向は先ほどの３つの機能の回復になりますので、これをより具体的に言いますと、各項目になります。項目を読み上げるだけとさせていただきますけれども、１つ目の機能の回復に関しては、個店の経営力、専門店としても魅力を改めて掲げることが必要であるということ。２つ目の機能の回復については、商店街の再組織化により共同性を高めるということ。３つ目の機能に関しては、地域のための視点を持って、地域住民とのつながりを回復すると。

専門店だけを補足させていただきますけれども、先ほどの繰り返しになりますけれども、買い物をしなくても地域商店街を大切と思っている人たちは、地域に少なからずまだいるわけです。このつながりを実質的なものに回復していくためには、当然その方々に再び商店街に来ていただく、つながっていただくことが久しくなっているけれども、その際には、ただ商店街の場にどうやったら来てくれるかということだけではなくて、自分たちを必要と思ってくれる地域に対して、自分たちは何ができるのか、どう貢献できるのかといった視点を第一に据える必要があるであろうということです。この視点を持ちながら行動していくことが求められているのが、最後のポイントということになります。

中央商店街の体制といった方向性がこうであるとすれば、おのずと我々まちラボの役割も明らかになっていきます。この４つのポイントにどうかかわっていくのか、どう参加し、貢献していくのかとなっていきます。

ちょっと駆け足で確認していきたいと思いますが、大文字のＡのほうです。

自己評価、自己調査について、調査ということに関しては、私たち大学は研究機関であり、調査能力を持っています。この点に関しては自信を持ってあるというふうに言っていいと思うのですけれども、これを生かし、先ほども申し上げたとおり、我々まちラボを中央商店街に構えていますので、当事者意識を持って中央商店街の一員としての自覚を持って、この自己調査、自己評価に加わっていく、参加することが求められるだろうと思います。それは具体的にどうするのかは、これからの課題ではありますけれども、こういった方向でやっぱり役割を果たしていきたいというふうに考えているということを申し上げておきます。

続いて、先ほどの３つのポイントで、６ページになりますけれども、１つ目のポイントに関しては、基本的には、私たちは経営コンサル等ではありませんので、直接個店の経営力を高めることに貢献したりしませんが、ただ側面的なお手伝いはできるかなと思っています。例えばですけれども、これは実際既に行っていますが、先ほど報告をしましたメディア表現指導員が常駐しておりますので、この力を活用していただきまして、各個店の情報発信力の向上という点では、即刻できるであろうと考えます。もちろんその他できることはあると思いますけれども、現状を考えて具体的な取り組みとしては以上になります。

２つ目に関しましては、こちらです。これも既に来年度企画していることでありますけれども、中央商店街の歴史調査学習、これは講義の一環として学生と一緒に来年度行う予定になっております。このことを通して商店街の歴史を掘り起こし、その商店街が改めてつながって連帯していくための基盤となるような中央商店街のアイデンティティを探るといったことをやっていきたいと考えています。

最後に、地域とのつながりを回復するポイントですけれども、この点に関しては、まちラボが中心的になるべきものだと考えています。積極的に主体的に取り組んでいこうと思っています。既に行っていることを中心に、ここで書いてありますけれども、地域の人たちにたまり場として、居場所としての機能を提供するとか、各種講座やイベントを通して生涯学習やレクリエーションの機会を提供することを通して、中央商店街に実際に来ていただくといったことを通して、地域と商店街との深い関係を媒介するような役割を担っていきたいと考えております。

駆け足になってしまいましたが、時間がきておりますので、以上にさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

第２報告（地域観光分野）

○司会（武田氏）　第２報告は、情報メディア学部情報メディア学科２年の樋口明日佳さん、東雲恭平さん、MARKOVA KATERINA KONSTANTINOVNA（マールコワ・カテリーナ・コンスタンチノヴ）さんより、

造形ワークショップ＆展覧会「Christmas Exhibition 2015」開催報告と題して行っていただきます。時間は 20 分です。お願いいたします。

○東雲氏　皆さん、こんにちは。これから、私たちの発表を始めさせていただきたいと思います。

今回、私たちが行ったのは、クリスマスアート稚内北星学園大学、その合同企画「Christmas Exhibition 2015」という題名です。実際につくったものが後ろのほうに展示してあります。駅に置いてあったのですが、実際に見た方とか、見かけた方とか、いらっしゃいますでしょうか。いらっしゃいましたら、挙手をお願いできますでしょうか。ありがとうございます。実際に来られなかった方も、今日、この発表を聞いて、お帰りの際に展示物を見ていただければなと思います。

今回の企画についてなのですが、大学生のアート作品とのコラボ装飾で話題をつくり、集客につなげるという目的のもと、私たちは企画を進めてきました。

次に企画概要なのですけれども、クリスマスをテーマとして公開制作しました。

展示場所は、キタカラ内の地域交流センター、多世代交流ロビー、アトリウムというところで、ロビーで展示しました。全体の展示物、あちらの立体造形、それとプロジェクションマッピングといって、映像を一からつくって上映しました。

次にウインドウディスプレイ、これは窓にマスキングテープを貼りクリスマスアートを作るものです。

備考として、期間中のアトリウム、入場者数なのですが、累計 8,200 人。期間としては、12 月４日から 25 日までの期間なのですが、この 8,200 人という数字は、この造形物を見に来た方もいらっしゃると思いますが、通りすがって見に来たお客様も、クリスマスの雰囲気を味わえたということで含んでおります。

この企画は授業として扱いましたが、このイベント立案方法を紹介したいと思います。まず、クリスマスというテーマがあり、その次に私たち学生が図書館やネット、また各自のアイデアを出し合って１つの紙にまとめる。それをディスカッションで絞り込み、多数決で採決をしました。

授業として扱いましたので、授業の説明をさせていただきたいと思います。マルチメディア表現概論と実習という名前なのですが、一番重要なのが、学生が教師役と学生役に分かれてやった

ということですね。一人教師役の生徒がいまして、大学の先生主導ではなく、私たち自身で進めていったというのがポイントです。

他にも広告制作論という授業では、後で映像を見せますけれども、クリスマスをテーマとした映像をみんなでつくりました。

次に、制作について説明させていただきます。まず、チームに分かれて制作しました。チームは四つありまして、映像班と立体造形班とウインドウディスプレイ班とポスター制作班と、この４つに分けてつくりました。

公開制作なのですが、教師役が、みんなのアイデアをまとめ、そこから決めるという画像です。

次に、こちらは公開制作として、大きいので、部品を組み立てるという内容の公開制作をしました。

次に、その２なのですが、展示作品の修復です。展示品は重く、いろいろ壊れてしまったりするので、展示してから修復をしました。次に片づけのときの写真です。窓に張ったテープが張りついてしまってなかなかとれず、液体を使ってこすってとったのですが、それでもとれずに、みんながつらかったという思い出が残っています。

こちらは、テープでつくったトナカイや、こちらは後ろにもあります立体造形をつくっている様子です。これは家です。こちらは、限られた資源の中でつくったクリスマスボックスなどがあります。これは実際に公開制作のときの画像です。先ほど言った動画のほうがありますので、そちらをちょっと見ていただきたいなと思います。（動画を流す）

こちらは、天井に私たちがつくった映像を映し出しているのですが、ちょっと見ていただきたいと思います。こんな感じで、全員分があるのですが、それを天井に映し出して、お客様に楽しんでいただく感じです。

こちらも公開制作のときの映像です。こちらも、プレゼントボックスと、実際に後ろのほうにあるクリスマスツリーを拡大したものです。これをつくりました。

○樋口氏　情報メディア学科２年の樋口明日佳と言います。ここからは、先程のイベントの振り返りを順番にしていきます。

最初に、立体造形班についてということで、プレゼントボックス、後ろにあるプレゼントボックスと、トナカイ、クリスマスツリー、靴下についてなのですが、まずプレゼントボックスは、３つ作りました。その３つを、限られた材料、マスキングテープや、あとはクリスマスの装飾品をつかって、違うデザインをつくるのがとても難しかったです。そして、持ち運びのときに畳むことと、あとはキタカラ内で目立たせるというのがイメージしにくかったので、イメージしながらデザインするのが難しく感じました。

２つ目、トナカイとクリスマスツリーなのですが、段ボールでつくったこともあり、立たせるための強度がなく立たせるための、工夫というのが非常に大変でした。靴下なのですが、これは制作してからすぐに壊れてしまい、展示できなくなってしまいました。その理由としては、展覧会をよいものにしようとして、オブジェを増やし過ぎたことにより、強度を確認する時間がありませんでした。そこは１つ反省点として挙げられます。

次に、後ろにはないのですが、クリスマスをイメージしたハウスもつくりました。このハウスも段ボールを素材にしていたので、ペンキで変形してしまったりして、のりやテープでの接着に苦労しました。ここでも組み立ての強度というのが不十分だったので、会期中展覧会をしているときには、屋根が落ちてきてしまいそうになり、補修作業を必要としてしまうことになりました。

３つ目に、ここは１つ私たちの中で一番の収穫だったかなと思っているのが、会期中、子どもたちが興味を持ってハウスで遊んでいたり、見ていたりしていたというシーンが見られました。

そして、４つ目、会場のクリスマスイメージを盛り上げることもできたかなと思っています。

次に、さっきのクリスマスハウスの中で、プロジェクションマッピングといって、家の中の窓にトナカイとサンタが外を歩いている映像を映しました。そのときに、トナカイ役が、予算と時間との関係で、トナカイの格好していなかったので、どのようにトナカイやサンタに見せると良いのか悩んだところです。

またこれはこま撮りアニメの技法だったので、１枚１枚切り抜いたり、貼ったりしていて、本当に時間のかかる作業だったので、ものすごく苦労した点でした。

４つ目のウインドウディスプレイ班ということで、先ほども紹介していたように、窓にマスキングテープを貼って画材にしていましたが、大学でのテストでは１週間ほどで外しましたが、そこでは剥がす作業も何の困難もなくできたのですが、実際には３週間ほどの展覧になったので、片づけるときには接着剤が残ってしまい、剥がす作業に苦労しました。

終わってみて、粘着強度が違ったことを考慮していなかったので、最初に言ったように、粘着材が残ってしまうという点が反省として挙げられました。

次、ポスター展示です。

○MARKOVA 氏　ポスター制作です。

私は、クリスマスのポスターをつくりました。ポスターをつくるためには、学生たちの写真を撮りました。そのとき、学生たちはいろいろな服を着て、いろいろなポーズをすることは恥ずかしいと言っていましたが、とても楽しかったと言っていました。その後で、私はプログラムで絵をつくりました。集まった写真と絵を合わせてポスターをつくりました。ポスターのベースをつ

くりました。その後で、先生にテキストを書いてもらいました。そこに写真とイラストを合わせて、かわいいキャラクターをつくって、ポスターにつけました。そういうふうにクリスマスの楽しい気持ちを伝えるために、クリスマスのポスターをつくりました。

○東雲氏　ここからが本題なのですが、展覧会を見た人たちの反応ということで、私たちが修復に行ったときの反応をご紹介させていただきたいと思います。

稚内の市民の人たちは、まず子どもたちが集まってきて、プロジェクションマッピングを楽しそうに見ていました。次に、駅からホーム、電車から降りてくる方も歩く速さを遅くして、じっくり見てくださいました。

私が修復作業していたときに道外の方に話しかけられました。稚内に来た理由は、雪を見に来たらしいのですが、実際そのときは雪があまりなくて、プロジェクションマッピングでは、雪道にサンタが歩いている動画をつくったのですが、実際にこういうふうになるのという言葉や、本当はもうちょっと雪が多い時期に来たかったなと声もいただいたので、後ほど説明しますが、目的とのつながりもできたのではないかなと思います。

実際、こちらが、子どもたちが集まってきているところです。真ん中に映像が見えるのですが、これがプロジェクションマッピングですね。雪が降っている情景を映し出して、この情景の中でサンタと泥棒が歩いている映像です。修復時の際に屋根に空間ができてしまったので、サンタを借りて、よじ登っていくようにといった感じで、楽しそうに映像を見ています。

○樋口氏　最後にまとめとして、このまちづくり稚内さんとの共同制作を引き続き行っていきたいということで、なかなかこのような体験はなかったので、次の後輩や新入生、あと私たちが３年生、４年生になっても、このような制作に関わっていきたいなと感じました。

２つ目、このマルチメディア表現概論という授業は、教職課程で必修の授業だったので、この授業の最初の目的として、教師としての力を養うということもありました。ですので、今回のイベントに参加することによって、専門教科以外のいろいろな力も養えたと感じています。

そして、３つ目、先ほども話していたように、地域の方々に声をかけられることが本当に多かったので、この展覧会が稚内の地域活性化につながっていたのではないかなと実感しました。この活動を大切にして、共同制作を引き続き行っていきたいなと思っています。目的であったライブ作品とコラボすることにより、集客力につなげることができたので、非常にいい体験となりました。

以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○司会（武田氏）　ありがとうございました。

それでは、ただいまの報告について、まずは担当された情報メディア学部准教授の小谷彰宏先生より、教育上あるいは研究、地域貢献上の意義などについてコメントを頂戴したいと思います。

小谷先生、お願いいたします。

○小谷氏　担当しました小谷です。

デザイン系やアート系の授業を担当しております。学生が今回いろいろ活躍してくれたのですけれども、教育と、それから街に出てのイベント等、そういったものを結びつける部分で、私自身も授業を進める上でちょっと苦労した点で、イベントにのめり込み過ぎると、ちょっと教育という意味から外れてしまいがちで、遊んでしまうような雰囲気もありました。ただ、逆に遊びの楽しさがイベントの楽しさにもつながるというようなところが、その授業との兼ね合いで、教員としては苦労した部分です。彼らは、教職を目指しているので、もし教員になったとしたら、専門の教科以外、私自身が過去美術の先生ですから、中学、高校の教員をずっと続けてきた経験上、単に授業だけでなく、学園祭だとか、地域のイベントに出ていくというような活動も教員がかなり苦労する部分なので、その部分がこの授業の中で学生たちが学んでいくことができたと思います。今回は非常にいい授業になったと思います。

以上です。（拍手）

第３報告（地域教育分野）

○司会（武田氏）　それでは、口頭報告最後となります。

第３報告は、情報メディア学部情報メディア学科４年の阿部浩幸さん、橋本薫さんと、情報メディア学部講師の米津直希先生より、「地域教育支援と教職としての学び―無料塾、豊富町「学び」の教室 ウィンターチャレンジから」と題して行っていただきます。時間は 20 分です。お願いいたします。

○阿部氏　情報メディア学部情報メディア学科４年の阿部浩幸です。無料塾について報告させていただきます。

まずは活動日時と場所、そして無料塾の内容について説明させていただきます。無料塾は、昨年の夏休みに一度短期で行っていまして、そして、昨年 11 月 10 日から現在まで、活動を続けています。無料塾は、教員を目指している学生が先生となり、まちなかメディアラボを教室として小中学生の勉強をサポートする塾のことです。活動日時は、毎週火曜日の 15 時半から 17 時の１時間半。場所は、稚内中央中心街にあるまちなかメディアラボ、通称「まちラボ」で行っています。

では次に、無料塾で、どのようなことをしているかをお話ししていきたいと思います。

無料塾では、１つの学級、クラスというのを意識して、始まりの会と終わりの会を必ずしています。現在、児童生徒側としては１つの気持ちの切りかえとして、先生、大学生側、私たちとしては、そうした気持ちの切り替えに加えて、朝の会や帰りの会の運営の練習としても位置づけています。このように、１つの活動を将来教師になったときに役立てられるように考えて行っています。始まりの会を終えたら、児童生徒は自分の学校の宿題に取り組みます。宿題のない子たちに関しては、こちらで用意したプリントをやってもらうようになっています。最後には、これポイント２つ目です。来てくれたみんなに感想を聞いてもらって、今後の反省に生かしていく。無料塾ではこのように進めております。

では次に、無料塾に来てくれている子どもの学校と人数を表にまとめてみました。

この円グラフは、無料塾を開始した昨年 11 月 10 日から現在までに、無料塾に来てくれた児童生徒の割合を左のほうは学校で分けたもの、右の表は生徒の数を表にしてみました。ここには書いていないのですけれども、全体的には、２、３、４年生の人数が多く、高学年になるにつれて人数が少なくなっているのが現状です。中には、表にも書いているとおり、南中学校の子たちも来ていて、中には受験勉強をしにくる生徒もいます。無料塾には、私たち教職ゼミで中学校高校数学の教員免許を取得しようとしている学生がそろっているので、小学校の勉強以外、受験勉強なども教えることができます。今後も中学生が利用してくれると、私たちとしてはうれしいと思っています。

次に、無料塾で、最後にこの活動から学んだことについて、私の考えを３つ述べたいと思います。

１つ目は言葉の力です。先生の言動一つひとつで子どもたちの集中力が段違いに変わってきます。例えばプリント１枚、「このプリントやるよ」という声かけを、「このクイズに正解できるか

な」という声かけだけで、２年生、３年生、４年生あたりの子たちは、断然やる気が変わってきます。教師として、言葉の力というものは、普段生活していくことで意識していかなければならないなというのを考える機会になったことが１つでした。

２つ目です。短い時間でも児童生徒一人ひとりに対応する指導の難しさを知れました。来る児童生徒にもいろいろな考え方があって、みんなに同じ指導をしても、聞いてくれる子と、聞いてくれない子とさまざまいて、学生側も苦しんだ部分があります。なので、今まで自分がしてきた指導というものを見直す機会になったということで、１ついい経験になりました。

３つ目です。子どもたちが、私たちが教えて問題を理解したことに対して感謝の言葉を言ったり、うれしそうな表情を見せたりするのは、私たちとしてはありがたかったです、どんな人でも感謝されるとうれしいものです。自分のやってきたことが人のためになっているという実感を持てることが、私たちにとっても１ついい経験になったのではないかなと思います。

ほかにも、話がちょっと変わってくるのですが、無料塾の時間に小中学生だけではなくて、１人おばあちゃんも電子辞書の使い方がわからなかったので教えてくれというので、この時間に来てくれたことがあります。そのときに、対応した学生がうれしい、感動したという話をから、理想は稚内に住んでいる人たちに、ここに来れば何とかなるという場所にしていくのが無料塾としてはいいのかなと思いました。

今までで、来た人がゼロ人ということがありませんでした。今までよりもここに来れば何とかなると思われるようになるためにも、火曜の 15 時半から必ず開いているという状態が必要になると思うので、学生一同、今までの反省を生かし、また頑張っていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。(拍手)

次は、橋本薫さんに豊富町の学びの場ということで、ウィンターチャレンジについて説明してもらいたいと思います。

○橋本氏　私、情報メディア学部情報メディア学科４年の橋本薫が「豊富町の学びの教室 ウィンターチャレンジ」について、お話しさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

まず、ウィンターチャレンジの概要についてですが、このようになっております。

私たち学生は、会場としてこの画像にあるセミナーハウスに宿泊し、そこで学習支援を行いました。夏期にも同様に同じ会場で学習支援を行いましたが、それに参加してくれた子どもたちに

加え、今回は、その話を聞いて参加したいといった子どもたちがいたため、かなりの人数が参加してくれました。３日間で延べ 124 人です。また今回は、１月 14 日に豊富町豊富高校の生徒さん５人も学習支援のお手伝いをしたいということで、ご協力してくださいました。支援側は、私たち学生 11 人と豊富高校の生徒さん５人で、合計 16 人で行いました。

それでは、３日間のウィンターチャレンジの内容に移ります。

学習支援としては、子どもたちの冬休みの課題が基本で、既に課題を終えている子どもたちについては、私たちが課題を用意しました。また、豊富町の教育委員会の方々がレクリエーションの場を設けてくださいました。まずは、子どもたちと餅つき体験、たこ揚げ体験です。この画像は、子どもたちと一緒にお餅つきをして、そのお餅を食べている写真です。たこ揚げ体験については、このように写真、たこが２つあるのですけれども、このように高く飛ばし過ぎてしまって、糸が絡まってしまうなどのトラブルや、うまく揚げられないと小学生低学年の子が泣き出してしまうなどの問題もありましたが、私たち学生がうまくサポートすることによって、私たち学生も子どもたちも楽しくたこ揚げをすることができました。

また、ヨガ体験も大学生だけではありますが、体験することができました。画像はこちらになります。このヨガは、私たちのリフレッシュの場として設けていただいたものです。前回は、子どもたちとパークゴルフをするなど、外で体を動かす時間もあったのですが、今回は冬のためできないということで、教育委員会の方々が配慮してくださったものです。

それでは、今回の活動の成果についてです。

今回は、学習面と生活面で学んだことについてお話しします。まずは、学習面についてです。今回、小学５年生と中学１年生でナンバープレイスを行いました。あと小学３年生では間違い探しを、そして中学生には高校入試問題の課題を制作しました。このように、各学年にあった課題を制作することで、子どもたちも意欲的に取り組んでくれました。また、そのように子どもたちの興味関心を引くことができ、なおかつ数学的な思考を育てることができる課題を作成することで、子どもたちがまた来たい、もっと日程をふやしてほしいと思えるような教室にすることができました。

しかし、前回と同様、用意していた課題が不足してしまうということもありました。今回は、豊富町の教育委員会の方々の協力もあり、３日間新しい課題を制作することができましたが、課題の量については、今後の改善点だと考えています。

次に、生活面についてです。

餅つき体験やたこ揚げ体験など、学習以外で子どもたちと交流が持てたのは、私たち学生の成長に大きくつながったと思います。教師は、勉強の教え方だけではなく、子どもたちとのかかわ

り方も大変重要になってきます。子どもたちとの距離感や、打ち解けてくれない子どもたちへの接し方、子どもたちとの関わりをどうしていくか。また、子どもたち同士のトラブルにどう対応していくかなど、この３日間でとても考えさせられました。この問題はこれから先、教師としてはずっと考えていかなければならない問題です。大学生のうちにこのような問題があることを知ることができ、また実際に子どもたちと触れ合うことで、この問題とより真剣に向き合うことができたと思います。

一方で、交流できたのは、今回はほとんどが小学生で、中学生や高校生とはあまり交流の時間を持つことができませんでした。これは、前回の交流が中学生中心だったため、今回は小学生を中心にという教育委員会の方のご配慮でした。ただ、中学生の子どもたちからは、今回はパークゴルフみたいに一緒に遊ぶ機会がないの、という声があったので、今後は考えていかなくてはならないなというふうに感じました。また、私たち学生も３日間協力しながらよい雰囲気で過ごすことができました。写真は、みんなで餃子をつくっているところです。みんながどうしたら気持ちよく過ごすことができるか話し合うことができ、協力して仕事をすることができたのも、日ごろの信頼関係をつくっていたからこそであると感じました。私たち稚内北星学園大学の学生のよいところであると思います。

最後に、今後の展望についてですが、前回と今回は、企画内容については、豊富町教育委員会の方々に主導していただきました。私たちも夏と冬２回の経験ができたので、次回からは、学生から教育委員会の方々に企画を提案しても、おもしろいのではないかと考えています。受け身の態勢ではなく、私たちから豊富町の子どもたちとの交流が持てるような企画を考えていきたいと思いました。

また、こうした学習支援は、継続していくことが重要であると考えています。夏と冬まだ始めて１年目ではありますが、この教室がまた何年も続いていってほしいなと思っております。

以上で、「豊富町学びの教室　ウィンターチャレンジ」についての活動報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

○米津氏　皆さん、こんにちは。本学講師の米津と申します。

私からは、先ほど２名の学生から発表がありました活動について、見ていてどういう意味があるのかとか、あるいはほかの政策的な側面とか、ほかの大学とかと比べてみて、どういう意義があるのかということについて、やや客観的な視点からお話をしたいと思っております。

まず、どういった取り組みをしたかという話です。これまでの取り組みを表にしております。もちろん、これ以前もボランティアの取り組みをしていたのですけれども、COC が始まってからのものです。稚内市の学力放課後グングン塾の指導員助手をさせていただいたことを皮切りにして、利尻、猿払、豊富などの自治体の皆様にご協力をいただいて、こういった取り組みをしてきました。今の体制は、学生 13 名と教員２名です。

それで、１つ例として、グングン塾の学生に対するアンケートにある、大学の担う地域貢献に役立っていると思いますかという質問では、とても思う、思う、というのが大半です。子どもたちにとって役立っているかという質問でも、とても思う、思う、というのが主です。それから、指導で自分の力がまだまだと思うことは何ですかということについては、意欲を持たせる、わかるように教える、生徒指導の力というところに課題を感じていることがわかります。

こういったことから、サンプル数は少ないのですけれども、学生の目線からも大学の地域貢献、子どもへの影響としてはよい評価があるのだと。それから、学生が自分の指導力について具体的な課題を発見しているということです。それから、グングン塾については、指導員の方がついていますので、指導員の方、あるいは教育委員会の方から、子どもへの関わり方について積極的だねということで、お声をいただきました。

このことから、自分が勉強していることと、社会がつながっていることで、自分のしている勉強と社会とのつながりを実感できると。それから、教員になるための学習もそうですけれども、こういったものに対するモチベーションの喚起がされるということが言えるかと思います。

次に、子どもたちからどうだったのか。これは、入手できたのが先ほど橋本さんから報告ありましたウィンターチャレンジのアンケートで、これは先日いただいたばかりなので学生も見ていませんけれども、小学生については、役に立ちましたというのが大半です。わかりやすかったですというのも大半です。次の夏休みにも開催予定ですけれども、また来たいですかという質問も、大半が来たいですという回答が出ております。小学生の記述の感想でも、楽しかった、おしゃべりをしてとても楽しかった。でも一方で、さっきありましたけれども、プリントが少なかったのでもっと計算持ってきてくださいというような声もあった。大体学生と子どもたちの考え方が一致しているということです。

次、中学生はちょっとおもしろいのですけれども、役に立ちましたかというのも大半です。わかりやすかったも大半です。また来たいですかというのもほぼ大半ですが、わからないもちょっと多いということなのですけれども、記述を見るとわかります。何で参加しましたかというのに対して、気まぐれ、強制、行けと言われた、部活の強制とか、部活の強制が９名もいるのですけれども、それで来ました。ただ、行けと言われてきたのだけれども、前の夏も楽しかったから、

来ましたという声が確かにあると。実際どうだったかというと、楽しかったです、わかりやすかったです。すごく評価が高い。仕方なく来たけれども楽しかったよという声があります。回答の中に「Ｋさん」が３人ぐらいいるのですけれども、同じ子です。個別の学生に対しての評価が高い。密接な交流ができていたのだなというような印象があります。

児童生徒にとってどういう意味があるかということですけれども、良い活動だったと言えることです。楽しかった、また参加したいという回答も多く、今後の継続も期待されます。学習だけではなく、楽しめる活動であり、定期的に大学生との交流ができる場所であるというふうに思われます。

時間がなくなってきましたので、少し飛ばしながら行きますが、こういった活動は学生教育の場として意味があるだろうということが言えます。それから、地域への貢献ということがあります。特に、大学そのものを知っていただくということで、この地域には大学が１つしかありませんので、大学を知る、やはりこの地域は高等教育進学率が低いですから、それ自体が悪いとか、いいとかという話ではないのですけれども、まず可能性として、見て知っていただくということは、１つ意味があるだろうと思われます。

他大学の事例と出しましたけれども、本学とちょっと似た沖縄の名桜大学というところです。沖縄本島北部で唯一の４年制大学であり、公設民営、これは公立大学になっていますけれども、教育学部ではないのだけれども免許が取れるということです。規模は 2,000 人規模なので全然違うのですけれども、この大学でも、離島に対する学習支援をやっておりまして、教師の資質について考える基礎の場になっているとか、子ども理解の大切さに気付くということがあります。そういった意味合いがやはりあるということで、他大学のこの事例から見ても、こういった活動は意味があることがわかるということです。

政策における位置づけで、これはちょっと長いので、飛ばしますけれども、要は、昨年 12 月に出された中央教育審議会答申の中で、教員養成課程においてどういったものが求められているかという中に、新たな課題としての ICT 等ありますね。これは、今回発表ありませんでしたけれども、猿払への遠隔学習支援ということについては、こういうことが多少はかかわってくるであろうと。

それから、学生インターンシップ、これは長期間にわたって学生が教育現場に入るということなのですけれども、現場で学ぶという意味でいうと、本学が今行っている活動というのは、ある程度当てはまる部分なのではないかと。実践的な力ということが求められています。教員は学校で育つと考えておりますので、そういった面からもこういった活動がある程度意味があるだろうと言えるかと思います。

駆け足でまとめですが、学生、児童生徒からは、積極的な評価があります。政策的にも意味があると言えるだろうと。他大学でも同じような活動が意義あるものだと言われているということから、学習支援活動が日常的な活動として定着するということ自体に意義があるだろうと。学力テストの点数が上がったとか、教員採用試験に受かるようになったとかということも、数値点な評価も大事だとは思うのですけれども「何だか良い」と評価されている実感の中で学ぶということが大事かなというふうに思います。ゆえに、継続的な取り組みと、そのために体制づくりが重要であると。また、今いる私たちが教員いなくなったら、次の先生が来てももうできないということでは継続になりませんので、活動の引継ぎを含めた継続が必要であると考えています。

少し駆け足でしたが、以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○司会（武田氏）　ありがとうございました。

それでは、ただいまの報告について、米津先生とともに担当された坪内教授よりコメントを頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

○坪内氏　皆さん、こんにちは。

教育支援で、今は２つの豊富町の教育支援と無料塾の話を学生のほうで報告をしてくれましたけれども、これ以外に、猿払のパソコンを使った、大学と猿払の学校を結んだ遠隔授業だとか、利尻町の教育支援というのがあるのですけれども、私はとってもうれしいのは、継続を希望されているのですよ。私も教育現場に長くいたものですから、子どもに直接責任を負うという立場で言うと、これはだめだな、これは無駄だなというときには、いろいろな理由をつけて断りを大体します。学生さんには申しわけないのですけれども、そんなことかなというふうに思うのですけれども、豊富町の教育支援も継続しており、無料塾は、阿部君がさりげなく言っていましたけれども、出席者というか、来てくれた者がゼロということは今までないのですよね。これは非常に大変すばらしいことだなというふうに思っているし、学生にも常々話していて、それは何かというと、教育支援の場合というのは、あるいはグングン塾もそうなのですけれども、子どもたちが机のところに座っていて、そこに先生方が行って教育実習みたく、さあ、これから授業やるよ、が一般的ですね。ところが、無料塾の場合は、一人ひとりがお客さんなのですよね。実は、私は学生に本当に伝えたいというか、教えたいなと思うのは、一人ひとりの学生が非常に貴重で大切な存在というか、最初から先生の話を聞くものなのだということではないのだということをわかる機会が大事ではないかなというふうに思っていて、そういうことが体験できる稚内や宗谷であることがうれしく思います。

今の報告会の前ですね、４年生の授業をちょうど昼から、やったのですけれども、講師は稚内の教育長に来ていただきまして、それで若い学生に伝えたいということで、４年生ちょうど５人ですけれども、ここでお話ししていただいたときに、最後に、無料塾とグングン塾について、学生が思っていることを当該学校の先生方にはなかなか言いづらいのですよね。教育長さんに直接聞いてもらうということで、お話しする機会ができました。

そうしましたら、教育長さんが今まで感じていた稚内の小学生の子どもの課題というのと学生さんが言っているのが、ほとんど一致していたというふうに教えてくれました。私は、そういう学生の、我々教師の側がさせたいなというのと、学生の側がいろいろ苦労しても学んでいると。そして、それを大勢の方々が支えてくれているというか、そういう響き合いみたいなものが子どもたちにとっても、感じてくれているのではないかなと。みんなに応援されていて学生が来てくれるのだという空気が、ちょっとずつなのですけれども広がっている感じがして、そこに今の我々の教職コースの学生が一番学んでいるところかなと思います。

今日、阿部君と橋本さんが報告をしました。４年生になったらこのぐらいの報告ができるのだなということをちょっと感じまして、うれしく思いました。しっかり聞いていただいて、本当にありがとうございます。以上です。(拍手)

○司会（武田氏）　ありがとうございました。

本日予定しておりました口頭報告３件を終えました。ここで、全体を通しての感想など頂戴できればと思います。（ 中 略 ）

この後、ポスターセッションに移りますので、口頭発表はこれにて終了させていただきます。しばらく発表者も会場におりますので、声などかけていただけましたら幸いです。

最後に、本学 COC 事業推進責任者である佐賀孝博副学長より閉会のご挨拶がございます。

佐賀孝博副学長、よろしくお願いいたします。

○佐賀副学長　皆さん、こんにちは。

昨年の 11 月より COC 事業推進の責任者をしております副学長の佐賀と申します。今後ともよろしくお願いいたします。

閉会に当たりまして、主催者を代表いたしまして、一言ご挨拶させていただきます。

本日、発表いただいた皆さん、本当にお疲れさまでした。非常に内容がよかったかなと思います。もしこの場で、学外の方で、いろいろと今日感じるところがあった方は、また何らかのつながりができればいいかなと考えております。

内容的には、第１報告では、まちなかメディアラボの今後の、我々側の使い方ですね、運用の仕方においていろいろな課題が見えてきたかなと感じております。また、第２報告では、地域を志向した、特に今回は地域振興という形になりますけれども、そういった授業の一貫ということですので、このほかにもさまざまな地域を志向した授業がありますので、この後もいろいろと皆さんにお披露目できるかなと考えております。いろいろとまちなかでさまざまなイベントを行いますので、もし見かけたら、お立ち寄りとご協力いただければ幸いです。第３報告では、発表の中でも言っておりましたけれども、従来からいろいろと学習支援のほうを行っておりましたけれども、このCOC事業が行われるようになって、ますます活発になってきたかなと思います。新しい形のまちなかメディアラボの使い方とか、地域連携の使い方とかもあわせて、今後考えられるかなと思って聞いておりました。

このように、本学としては、いろいろこれまでもやりたいことはあったのですけれども、なかなか予算の都合などで、できなかったことが、このCOC事業でできるようになってまいりました。この事業を通じて、学生がさまざまな事柄を学ぶ、いわゆる社会人基礎力というものを身につけられるというような場になってきているかなと実感しております。

今日は、初めての試みでしたけれども、司会の武田さん含め学生、あるいは職員のほうもちょっと若い者が多目に発表しましたけれども、もし今回の発表を聞いてなかなか稚内北星もいいよねというふうに思われたら、受験シーズンでございまして、お近くの高校生等おりましたら、ぜひ稚内北星もおもしろいよということを一言おっしゃっていただければと思います。

また、今回発表にはなかったのですけれども、夜間主の社会人の学生の方がいろいろとこういったことにかかわっているところもありますので、皆さんの中でも、もうちょっとやっぱり学んでみようかなと思う方がいらっしゃいましたら、なかなか夜間は大変かもしれませんけれども、ぜひ夜間主のほうで学んでいただければ幸いに思います。

本日、本当にご出席いただきありがとうございました。また、今後ともいろいろとおつき合いいただければと思います。今後とも、私どもCOC活動に対しましてご指導、ご鞭撻いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本日ご参集の皆様方のご多幸をお祈り申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、本当にありがとうございました。（拍手）

〇司会（武田氏）　ありがとうございました。

本学では、２月 13 日に例年取り組んでおります彩北わっキャナイトを初め、多くのイベントに学生、教職員が参加いたします。これからも、地域をフィールドにして、研究、教育活動を行ってまいりますし、大学の取り組みを通じて地域に貢献していきたいと考えています。地域の皆様のご支援やご協力を頂戴したいと考えております。これからも稚内北星学園大学をよろしくお願いいたします。

この後は、ポスターセッションとして、自由解散とさせていただきます。お帰りの際、アンケート調査票の提出にご協力ください。

本日は、誠にありがとうございました。（拍手）

２．ポスター報告（報告資料）

第１報告

〇報告者

高　　澍（情報メディア学部　特任助教／稚内北星学園大学　学習コンシェルジュ）

〇報告題名

わくほくメディアラボ及び学習コンシェルジュの運用状況

〇報告内容要旨

稚内北星学園大学は学生のアクティブラーニングを促進させるための施設（通称：わくほくメディアラボ）と学習支援を担当する、学習コンシェルジュを配置し、2015 年５月から本格的に運用を開始した。本発表は、今年度前半期のわくほくメディアラボの活用状況と学生の学習コンシェルジュの利用状況を統計的に分析し、その統計情報から学生の傾向を把握し、今後の課題を明確にするための基礎資料とするものである。

第２報告

〇報告者

中野　窓香（稚内北星学園大学　メディア表現指導員）

〇報告題名

まちなかメディアラボ平成 27 年度の利用状況について

〇報告内容要旨

「まちなかメディアラボ（略称：まちラボ）」は中心市街地における学生の教育および自主的活動の拠点、またメディア表現活動等の市民の活動拠点、さらにこれらを通した中心市街地・商店街活性化の拠点となることを目指して 2015 年４月にオープンした。本発表は今年度のまちラボの利用状況を統計的に分析し、今後の課題を明確にするための基礎資料とする。

稚内北星学園大学 Wakkanai Hokusei Gakuen University　文部科学省 地(知)の拠点

わくほくメディアラボと学習コンシェルジュの利用状況

わくほくメディアラボ運営会議
高シュウ　安藤友晴

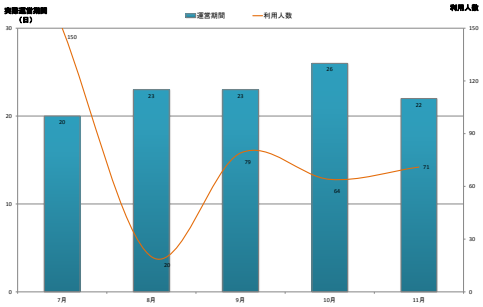
1. 背景

稚内北星学園大学は平成26年度（2014年）から文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）に選定され、「地域の教育力向上」「観光まちづくり」「中心市街地活性化」の三つの視点から事業推進をしています。「わくほくメディアラボ」はCOC事業を円滑に進めるうえで欠かせない学生のアクティブラーニングを支援する施設として、2015年5月から設置されました。わくほくメディアラボには三つの個別ブースがあり、それぞれのブースにMacやホワイトボードが整備され、iPadやプロジェクターも借りられるようになっています。また、学生のアクティブラーニングを支えるため、4月からガオ・シュウ特任助教が着任し、「学習コンシェルジュ」として、学生に文献検索やレポート執筆などの個別指導を中心とした学習支援を行っています。

2. わくラボの利用について（7月～11月）

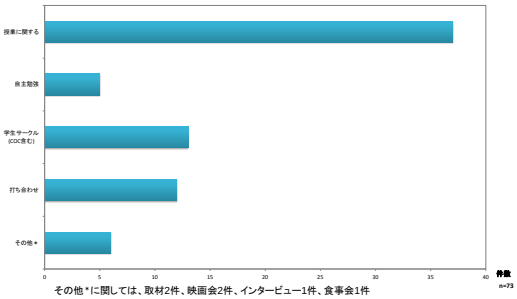
わくほくメディアラボは2015年5月11日から正式運営を始め、本学の授業の実施日と同じく月曜日から土曜日まで運営しています（祝日を除く）。本報告は7月から11月までの利用状況を集計しました。のべ114日間運営し、合計73件、384人の利用がありました。

2.1 運営時間と利用人数



わくほくメディアラボは毎月20日間以上運営日数を確保しています。調査を行った5ヶ月間のうち7月の利用が最も多く、150名が利用しました。夏休み中に（8月）利用人数が20名に減少しましたが、後期開始時（9月）から徐々に回復し、毎月の利用人数は70名ほどに維持しています。

2.2 利用目的



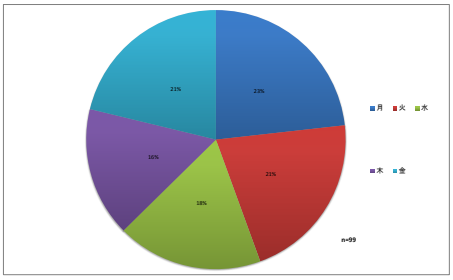
その他＊に関しては、取材2件、映画会2件、インタビュー1件、食事会1件

わくほくメディアラボは主に学生の自習スペースとして利用されています。ゼミや授業などの利用は全ての利用件数の半分以上（51%）を占めています。また、それ以外にも学生サークル会議や取材、映画会など、多様な活用がなされています。
なお、利用時間帯については午後が最もよく使われている時間帯であり、また、プロジェクターやホワイトボードなどを使い、授業を行うこともよく見られます。

3. 学習コンシェルジュの利用について（5月～11月）

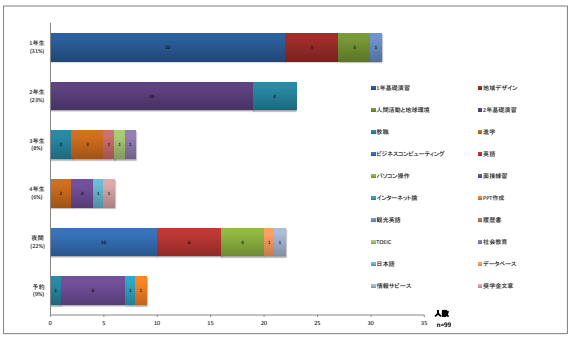
学習コンシェルジュは学生の学習サポーターとして、主に図書館で指導を行っています。毎週月曜日から金曜日まで常駐し、情報検索やレポート作成、発表練習などといった幅広い範囲の指導を行っています。また、学習コンシェルジュ公式Lineアカウントを活用することで、学生の希望の時間帯で指導することもできます。5月から11月まで、合計99名の学生指導を行い、多くの課題についての問題解決ができました。

3.1 利用時間帯



学習コンシェルジュの利用時間帯は曜日により大きな差が見られず、平均的に利用されています。その中、月、火と水曜日の利用程度は他より少々多いとみられますが、これは時間割との関連が大きいと考えられます。

3.2 指導課題



1年生と2年生は多く学習コンシェルジュを利用しております。そのうち、「基礎演習」「情報メディアゼミナール」といった必修科目や「地域デザイン」「教職関連科目」といった履修生が多い授業に関する個別指導が最も多くなっています。3年生と4年生については、特に留学生の日本語の校正や進学などの進路選択に必要な文章の作成を指導しています。夜間主クラス学生に関しては、パソコンや英語など実用的な授業を多く履修するため、「ビジネスコンピューティング」におけるパソコンの操作法や個別の試験指導を行っています。また、予約制は後期（10月）から始め、主に留学生が利用しています。

4. その他の活動

中国語講座

◂参考資料

2015年10月から、中央商店街にあるまちラボで中国語講座を開講しました。講座は毎月2回程度で開講しています。講座は初心者に向け、発音から日常会話までよく使える言葉を勉強します。また、中国語の勉強だけではなく、中国文化の理解を深めるため、面白いことわざも紹介しています。講座は今年1月に第一回を終了し、第二回目は4月からお続きに開講する予定としています。

▲発音を練習する様子

▼ことわざを紹介

映画会

“英語を楽しくやってみませんか？”

学生の英語能力を向上のため、週一回程度で映画会を行っています。日常生活によく使われている表現やスラングを取り上げ、ネイティヴな発音を勉強します。また英語圏の文化や歴史についても触れるきっかけを作り、英語単体ではなく映画を通して、視野を広げることも目的としています。

◂◂学習資料

映画会ポスター▸▸

5. 考察

① わくほくメディアラボの利用状況は7月から集計し始めたので実際の利用回数・人数は数値以上であると考えられます。また、現在は授業を中心に使用されているが、アクティブラーニングや学生の自習など多様な活動に対応できる環境を期待し、今後の明確な使用方法、管理制度を作る必要があるのではないか。
② 学習コンシェルジュの利用状況は1年生と2年生が多く、聞かれる課題が単一的であり、今後に向けて、授業と連携を強め、きめ細かいサポートで対応できるように改善しつつ、学習サポートの質を向上させることを課題とされます。

文部科学省 地(知)の拠点　稚内北星学園大学 Wakkanai Hokusei Gakuen University

第４回地域活動報告会 ポスター報告（2016.1.26）

まちなかメディアラボ 平成27年度の利用状況について

メディア表現指導員　中野窓香

1.はじめに

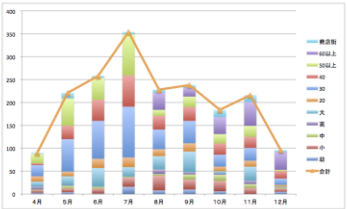
まちなかメディアラボ（略称：まちラボ）」は中心市街地における学生の教育および自主的活動の拠点、またメディア表現活動等の市民の活動拠点、さらにこれらを通した中心市街地・商店街活性化の拠点となることを目指して2015年4月18日にオープンした。

本発表は今年度のまちラボの利用状況を統計的に分析し、今後の課題を明確にするための基礎資料とする。

2.月毎の利用者数

○利用者数推移(平成27年４月以降／大規模イベントを除く)

	幼	小	中	高	大	20	30	40	50以上	60以上	商店街	合計	
4月	3	5	2	6	11	12	24	4	21	―	2	90	※除外
5月	4	8	6	1	20	10	71	29	60	―	12	221	
6月	1	11	4	0	41	20	83	46	48	―	4	258	
7月	16	20	2	0	21	21	111	68	90	―	5	354	※北門神社祭
8月	8	32	4	10	29	15	43	30	13	38	6	228	※美術祭り・マジックWS・職業体験
9月	10	22	11	5	45	18	49	30	23	19	6	238	
１０月	6	23	13	3	5	10	26	25	20	37	16	184	
１１月	0	13	9	7	31	13	28	24	24	52	15	216	※無料塾
１２月	5	7	2	0	2	4	14	16	3	39	4	96	※無料塾・コンペ
合計	53	141	53	32	205	123	449	272	302	185	70	1885	

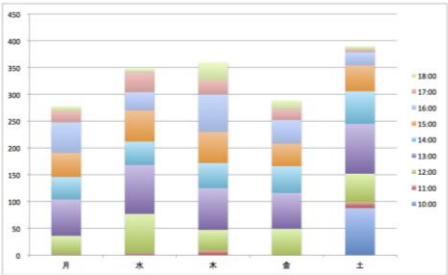


○利用者数推移(平成27年４月以降／大規模イベントを含む)

	幼	小	中	高	大	20	30	40	50以上	60以上	商店街	合計
4月	3	5	2	6	11	12	24	4	21	―	2	90
5月	4	8	6	1	20	10	71	29	60	―	12	221
6月	1	11	4	0	41	20	83	46	48	―	4	258
7月	203	327	96	48	79	205	367	226	258	―	40	1849
8月	116	234	7	11	51	67	209	80	81	39	9	904
9月	10	22	11	5	45	18	49	30	23	19	6	238
１０月	6	23	13	3	5	10	26	25	20	37	16	184
１１月	0	39	11	7	42	13	28	24	24	55	15	258
１２月	5	15	5	0	27	4	19	19	4	51	4	153
合計	348	684	155	81	321	359	876	483	539	201	108	4155

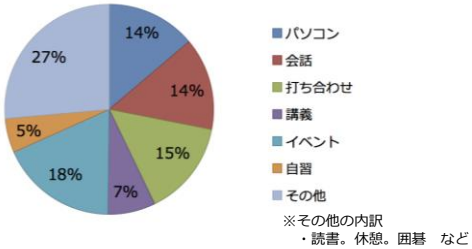
3.曜日・時間別

	月	水	木	金	土	合計
10:00	0	1	0	0	88	89
11:00	2	3	9	0	11	25
12:00	34	73	38	49	53	247
13:00	68	91	78	67	93	397
14:00	42	44	47	50	61	244
15:00	45	58	58	42	48	251
16:00	57	34	70	44	25	230
17:00	21	37	27	21	5	111
18:00	9	7	33	16	6	71
合計	278	348	360	289	390	



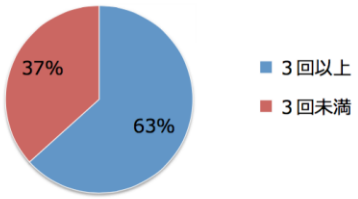
4.利用目的

※2015年7月11日以降



5.継続利用

※2015年7月11日以降



6.利用者の声(アンケートより)

- 本当に入っていいのかドキドキしました。外のポスターをもう少し大きく書いてくれたら入りやすいです。妊婦なので少し休憩できたのはうれかったです。ありがとうございました。(20代女性)
- 人と関わるのが苦手なので、静かなところは大好きです。まちラボは学校とは違い緊張せず良いと思いました。（10代小学生）
- 夏場、扇風機を設置してほしい（20代大学生）
- 午前10時くらいから開館してほしい。(60代男性)
- 親切に対応していただいてありがとうございました。これからも助言・指導よろしくお願いします。（70代以上男性）
- 楽しい時間をありがとう。話し相手になってくれて。（60代男性）
- 楽しい（１０代中学生）
- ここのルールみたいなのをチラシ（または黒板）に書けば良いと思います。（１０代中学生）

３．アンケート集計結果

＜調査の概要＞

実 施 年 月 日　　平成 28 年１月 26 日
出　席　者　数　　70 名
調 査 票 回 収 数　　50 枚（出席者数に対する回収数の割合　71.4%）

＜凡例＞

１）当該設問に対する回答数を「n=」で表記した。

２）自由記述については、回答者の意図を損なわぬよう、原則として原文の形で取りまとめた。

＜結果の概略＞

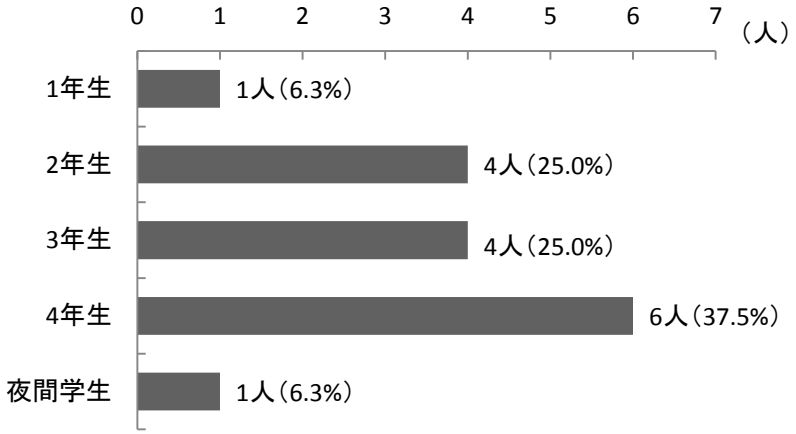
当日参加された 70 名のうち 50 名（71.4%）から回答を得た。

「報告会に来てよかったと思いますか。」との質問に、大変良かった（17.1%）、良かった（56.1%）の回答（当該設問の有効回答数は 41）を頂いた。

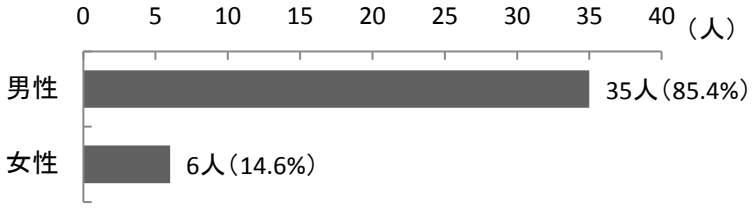
「大変良かった」と回答いただいた方の自由記述には、「教職員、学生の頑張りに感動しました。」との一般参加者の方の声の他、「学生の声が聞けた」との教職員の声もあった。

（１）はじめにあなたの学年（学生のみ回答）、性別、世代、所属をお聞きします。（各１つに○）

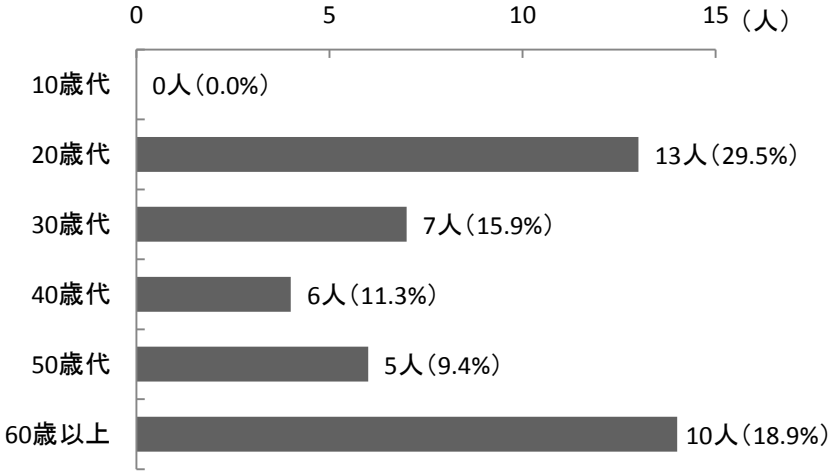
① 学年（学生のみ回答）（n=16）



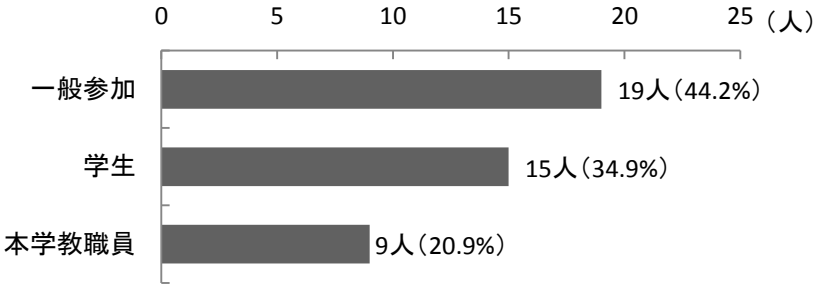
② 性別（n=41）



③ 年齢（n=44）

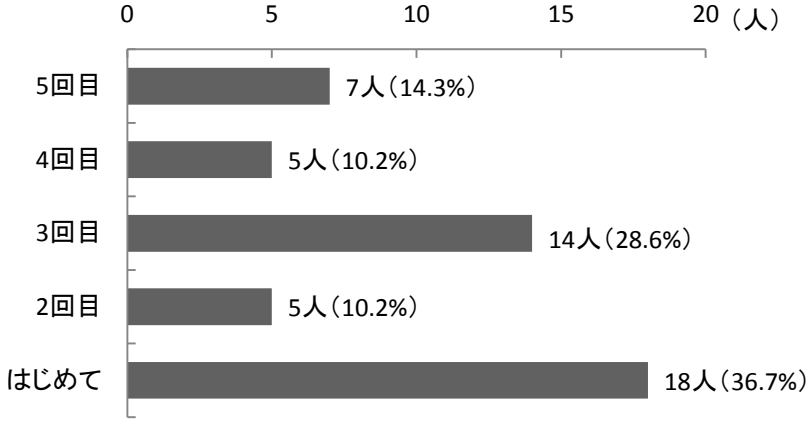


④ 所属（n=43）



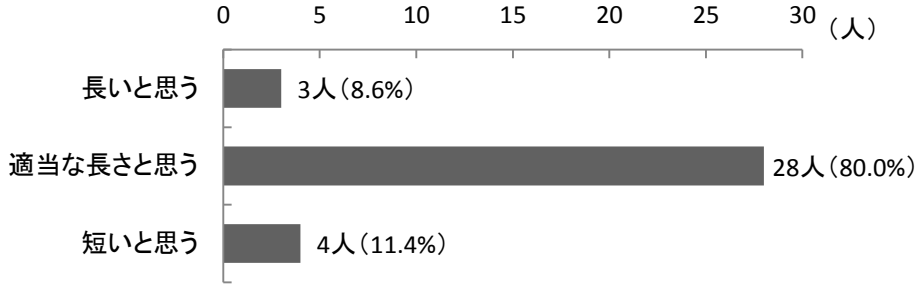
（２）これまで、本学では地域活動報告会３回、地域シンポジウムを１回開催しました。何回目のご出席かお聞きします。（１つに○）

（n=49）

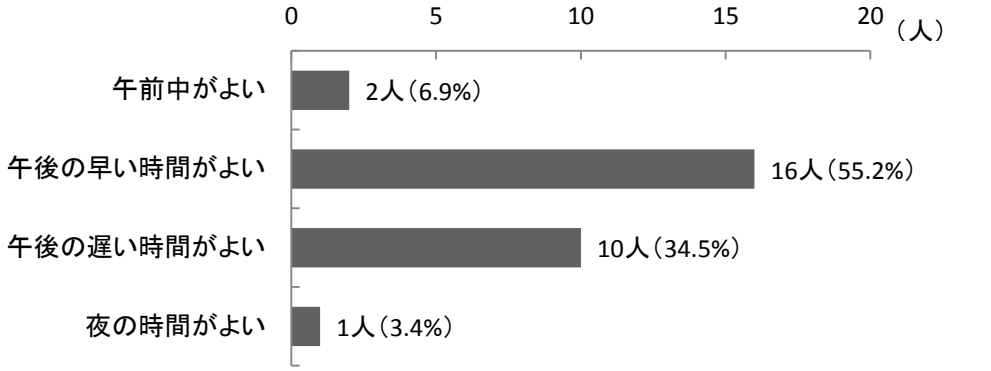


（３）報告会の長さ、開催時間についてお聞きします。（各１つに○）

① 報告会の長さ（n=35）

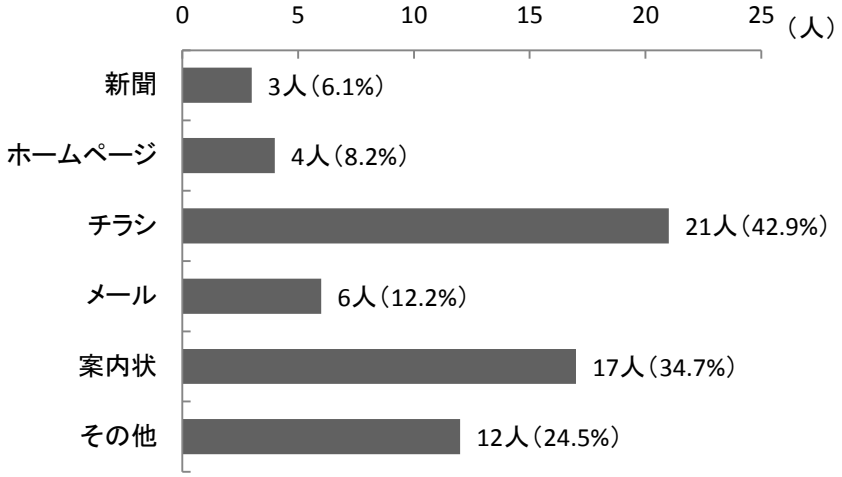


② 報告会の開催時間（n=29）



（４）今日の報告会を何で知りましたか。（複数回答可）

（n=49）



＜その他の記述＞

・会議

・ゼミ

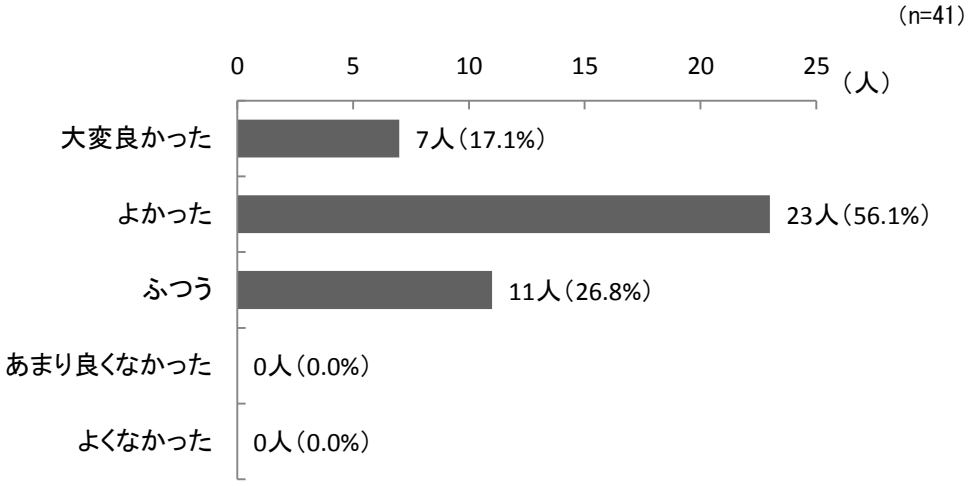
・関係者

・まちラボ

・学内掲示のポスター

・教諭から

（５）報告会に来てよかったと思いますか。（１つに○）



「１．大変良かった」を選択した理由（自由記述）

・教職員、学生の頑張りに感動しました。（一般）

・学生の声が聞けた（本学教職員）

・学生の発表が聞けるので（本学教職員）

「２．よかった」を選択した理由（自由記述）

・学生が地域に飛び出して活動していることが良く分かった。（一般）

・大学の活動が見える点（一般）

・上手にまとめられていて良かったと思います（学生，４年）

・大学の取り組み内容を多くの方に知っていただき、大学の PR も兼ねて学生を確保へとつながっていくとよいと思います（学生，夜間学生）

・様々な学生たちが様々な分野で活躍していることがはっきりわかった（学生，３年）

・他学年が何をやっていたのか知ることができた（学生，３年）

・学生の活動についてのことが知れた（学生，４年）

・他の学生がどのような活動をしているのか、この大学が地域にどのようなことをしているのかがわかるから（学生，３年）

・定期的に、大学や学生はどんなことをやっているのかをわかってよかったと思います

「３．ふつう」を選択した理由（自由記述）

・担当教員の話を聞けて良かったが、学生の発表が活動と地域とのかかわりでどう感じたのか、どう考えて活動したのかが足りない（学生，３年）

・ルーティン的になっていると感じました。性質上、難しいですが、楽しくやりたいですね、学生の司会は良かったです。（本学教職員）

（６）今後、このような会で取り扱ってほしい内容や話題（学生、本学教職員は行ないたい内容や話題）をお聞かせください。

・今日発表に合ったような取り組みを通して、学生が力をつけてきているということが良くわかりました。（一般）
・クリスマス事業はキタカラで開催しており、まちラボの中央商店街との連携は考えられないか（一般）
・まちラボを中心とした商店街との関わり、また、子どもの学習支援などをベースにもっと広い地域課題へのアプローチがあってよい。例えば、町内会での地域活動（一般）
・将来、夜間主の活動の取り組みも聞きたいものです（学生，夜間学生）
・このような報告会で同じような報告が多いので、新しいものを聞きたい。（学生，３年）
・展望などを中心とした会をやってほしい（学生，４年）
・ポスターセッションもあるので、口頭発表を絞って、特集的な会があってもいいのでは、映像祭とか、体験的活動、作品展示など（今回の展示のような）1301 教室ではなくて体育館も使えるのでは（本学教職員）
・教職、社教以外の学生の活動の様子（本学教職員）
・商店街復刻を目指すのか新たな商店街の在り方を設計するのか（議論する場にしてほしい）（本学教職員）
・大学の先生の地域志向研究について地域に向けて発表の機会があれば
・発表の時間が短かった。もっと詳しく聞きたかった。

（７）さいごに、各報告についてご感想や激励のメッセージがありましたらお聞かせください。

報告①

・写真展見に行きました（一般）
・お疲れ様です、北地区の人間として、中央商店街は何とか元気になってほしい、しかし我々自身も痛みを知りつつ取り組むべきと実感しました。（一般）
・まちラボの位置付けが理解できる（一般）
・会議などで使ってみたいと思います（一般）
・中央商店街の再生へ向けて、これからもアイデアをお願いします（一般）
・中国語講座で利用させていただいています。来年度も講座よろしくお願いします。（一般）
・まちラボの活動内容を詳しく知ることができて良かったです。（一般）
・活動自体はとても良いのに全体的にPR不足を感じた。まちラボ自体も知らない市民は多いと思う（一般）
・商店街の各個店はどう考えているのでしょうね（一般）
・今後の活動、商店街ヒヤリングの調査、分野による提言に期待します。（一般）
・私もイベントがあると行っていたので、そうゆう機会を増やすといいと思います。（学生，２年）
・１年目にしては良い成果があったと思います。２年以降もよりよくしていってください（学生，４年）
・もう少し時間配分をしっかりしてほしい、尻すぼみになってしまった。（学生，４年）
・グラフが分かりやすい、若原先生の話をもっと聞きたかった（学生，４年）
・「まちラボ」の利用者が増えてきていることわかり今後に期待！特に「たまり場・居場所」になると理想（学生，夜間学生）
・まちラボの話が面白かったです。（学生）
・今後のまちラボでのイベントなどを楽しみにしたい（学生，３年）
・今後の主体的活動を期待しています（学生，４年）
・中央商店街の今後の変化を楽しみにしたい（学生，３年）
・今後、若者向けのイベントがあると楽しみだ（学生，２年）
・まちなかメディアラボの利用理由は把握することができた（学生，４年）
・非常に重要な内容の報告。大学のCOC事情の意味が伝わる。中野さんの表・グラフは数値をもう少し大きく見せてほしい（本学教職員）

・もう少し詳しく聞きたい内容だった。（本学教職員）
・まちラボの位置付けが理解できる成果がまとめられていてよかったです。よりよくしていきたいですね（本学教職員）
・発表時間が短くてかわいそうだった。（本学教職員）
・利用状況についての発表が良かった（本学教職員）
・利用と目的の関係を明らかにしてほしい、昨日海部のための克服すべき課題提示を次回期待する。消費者の生活スタイルの変化への対応の視点があるとよい（本学教職員）
・中央商店街に対する危機感が良く分かった
・詳しく来所数など調査されていると思います
・今後の実践活動の成果に期待します
・自己調査、自己評価には自発的発想能力、小さな子供の発想能力づくり
・まちラボがいろいろ楽しそうで良かったです。

報告②

・学生が地域に出ることは良いことです（一般）
・お疲れ様です、現地では、大変楽しく拝見しました。今後屋外のイルミネーションなど〇〇することに期待します。（一般）
・とても参考になった（一般）
・天井の映写は気がつかなかったです→天井へ視線を動かす動線を作ればいいのでは。期間中にワークショップなどで一般市民が参加できるものがあればよいですね。期間が長いのであれば、その成果物を付加して、展示を変える（発展させる）ようにするともっと集客や変化があったと思います（成果物をプラスして完成させるイメージ）（一般）
・クリスマスの雰囲気をキタカラ内で作っていただき、とてもよかったです（一般）
・キタカラでプロジェクションマッピングを行っているのは知っていたので、大変だったこと、苦労したことを聞けて良かったです（一般）
・活動自体はとても良いが全体的にPR不足を感じた。知らない人が多かったのでは？（一般）
・個別の会社などとの共同企画があってもよいのではないでしょうか？そのようなニーズがあるかどうかわからないが（一般）
・活動に対する評価（アンケート調査）を調査、分析すべきと思います（一般）
・実際に行くことはありませんでしたが、準備に関わっていたので、たくさんの人に楽しんでもらったのはうれしいです（学生，２年）

・見に行ったときに稚内がクリスマス一色になっていて感動しました。来年も見に行きたいです（学生，４年）
・事前練習を一度でもよいのでしてほしい（学生，４年）
・もう少し内容をまとめてほしかった。堂々としていた（学生，４年）
・マルチメディアの活動を通して、子どもたちと交流を持てたことが良かったと思います。アートの楽しさを知らせることができて良かったと思います。なんでもかわいい！が第一歩です。成果があったと思います。（学生，夜間学生）
・今日の報告であったイベントは知らないものだったので、新鮮だった。（学生，３年）
・学びの部分をもう少し語ってもよかったのでは？と感じました（学生，４年）
・地域振興のための講義でもあり、今後も頑張ってほしい。文字が小さかった（学生，３年）
・私も実際に講義を受けたが、市民の声や子供たちが喜んでくれて大変良かった（学生，２年）
・パワーポイントがとても見にくい。発表はとてもよかった（学生，４年）
・学生らしい発表で好感が持てる。具体的な活動が紹介されてよかった。（本学教職員）
・展示を見ただけなので、内容が知れて良かったです。（本学教職員）
・発表の練習をもう少しした方が良い（本学教職員）
・学生の発表は良かった（スライドの字が細く小さい）（本学教職員）
・今回の活動の経験を後輩につなげ、稚内の新たな観光資源の創出につなげてほしい（本学教職員）
・学生たちが堂々としてすごく良かった。地域活動を通じて成長する過程が感じられた
・一般市民と接触し直接感想を聞けたのは良い
・今後の実践活動の成果に期待します
・短期的視点と長期的視点を考える
・詳しく説明していただいてよかったと思いますが、学生が少し疲れているよう見えますが、お疲れ様でした

<u>報告③</u>

・学生と交流もできました。頑張ってください（一般）
・お疲れ様です、スーツが大変きつそうでした。本来の意義から外れるかとは思いますが、学生さんの発想も生かし、子どもたちや地域に刺激を与えていただけることをさらに期待します（一般）
・とても上手な報告でした（一般）

・教える側の実験的な試行が毎回あると、ノウハウが積みあがっていくのでは（一般）
・学習支援ご苦労さまです。これからも継続してください（一般）
・子どもたちに教える体験をしていることは大変良いと思います。頑張ってください（一般）
・活動自体はとても良いが全体的にPR不足を感じた。知らない人が多かったのでは、（一般）
・続けていくことが大切ですね、各教委にとってなくてはならないものという認識を生むことが必要（一般）
・大変有意義な活動と思います。今後も継続と充実を期待します（一般）
・引き続き来年度もやっていってもらって、どんどん大きくなっていってもらいたいと思います。（学生，４年）
・グラフを使用するならグラフタイトルをつけるべき（学生，４年）
・学生と米津先生との発表がリンクしていて理解しやすい（学生，４年）
・大切な学力向上に大貢献で力強く思います。教育費の高い中、どんなに子供たちの親御さんも助かっていることでしょう。（学生，夜間学生）
・パワーポイントが凝っていた。内容に関して同じゼミなのでありません（学生，３年）
・今後の活躍に期待しています（学生，４年）
・同ゼミなので私自身含め頑張りたい（学生，３年）
・教職ゼミの活動を深く知りたいと感じた（学生，２年）
・パワーポイントがすごく見やすかった。わかりやすかった（学生，４年）
・二人の学生の発表は「4年生になるとこのぐらいの発表ができる」ことが分かった（本学教職員）
・見せ方を工夫して、飽きない発表にしたいですね（本学教職員）
・全体的に良い発表だった。学生にはこの水準が求められると思う（本学教職員）
・学生の発表スライドは見やすかった（本学教職員）
・無料、ボランティアでは気の毒、子育て支援の一環として、市からの予算を取るべき（本学教職員）
・とてもよかった
・教職を目指している学生にとってはとても良い企画
・今後の実践活動の成果に期待します
・無料塾の発想をこれからも続けてほしい
・教職の学生たち、いつも積極的に発表をしていただいて、とてもよかったと思います。PPのデザインはとてもよく、発表内容もとてもわかりやすかったです

各ポスター

・頑張っていたと思います（一般）

・とてもわかりやすかった（一般）

・活動自体はとても良いが全体的に PR 不足を感じた（一般）

・見やすいデザインで良いと感じました（学生，４年）

・全体的にポイントが小さい　口頭説明を 2-3 分でする時間を作って？（本学教職員）

・ポスター間のスペースはもう少しとっても良いかも（本学教職員）

・詳細なデータのようですがゆっくり見る時間がありませんでした。

・今後の実践活動の成果に期待します

運　　営

・まとまっていてよかった（一般）

・報告会を大学で！ではなくもっと各地域でやったらどうか。一般市民に聞いてもらう機会を増やすことによって大学 PR にもなる。とても良い活動を行っているので、多くの人に知ってもらう方法を！（一般）

・学生が主たる運営を行うことは良い（一般）

・質疑時間をもっと（一般）

・ひとつひとつの学生の活動内容の報告とその活動に対して学問的に先生たちよりお話が聞けて良かったです。素晴らしい報告会でした。（学生，夜間学生）

・時間管理をもう少しキッチリした方が良いのではか（学生，４年）

・武田君が「きちんと進める」ことを真剣に考えて司会をしていた。（本学教職員）

・大変スムーズでした。お疲れ様でした。（本学教職員）

・聴衆からの質問・意見・感想について報告②や③のような事前準備が各報告についてあった方が良いかも（本学教職員）

・もう少し動画などを活用してくれればよいと思う

・学生の方の司会でしたがハキハキしていて良かった

資料（アンケート調査票）

ア　ン　ケ　ー　ト

＜　お　願　い　＞
- このアンケートは、ＣＯＣ推進事業の推進と地域活動報告会の充実を図る目的で、参加者の皆様の感想やご意見をお伺いするものです。
- このアンケート調査の結果は、集計して利用され、個人を特定することはありません。
- このアンケートにより得た情報の管理は、個人情報保護規程等に則り、ＣＯＣ推進委員会が適切に行います。**ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。**

以下、７点お伺いします。該当する番号に〇を付け、自由記述に感想をお書きください。

（１）はじめにあなたの学年（学生のみ回答）、性別、世代、所属をお聞きします。（各１つに〇）

① 学年（学生のみ回答）　1．1年　2．2年　3．3年　4．4年　5．夜間学生
② 性別　1．男性　2．女性
③ 世代　1．10歳代　2．20歳代　3．30歳代　4．４０歳代　5．50歳　6．60歳代以上
④ 所属　1．一般参加　2．学生　3．本学教職員

（２）これまで、本学では地域活動報告会３回、地域シンポジウムを１回開催しました。何回目のご出席かお聞きします。（１つに〇）

1．5回目　2．4回目　3．3回目　4．2回目　5．はじめて

（３）報告会の長さ、開催時間についてお聞きします。（各１つに〇）

① 報告会の長さ　1．長いと思う　2．適当な長さと思う　3．短いと思う
② 会の開催時間　1．午前中がよい　2．午後の早い時間がよい　3．午後の遅い時間がよい　4．夜の時間がよい

（４）今日の報告会を何で知りましたか。（複数回答可）

1．新聞　2．ホームページ　3．チラシ　4．メール　5．案内状　6．その他（　　）

（５）報告会に来てよかったと思いますか。（１つに〇）

1．大変良かった　2．よかった　3．ふつう　4．あまり良くなかった　5．よくなかった

理由をお聞かせください：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（６）今後、このような会で取り扱ってほしい内容や話題（学生、本学教職員は行いたい内容や話題）をお聞かせください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（７）さいごに、各報告等についてご感想や激励のメッセージをお聞かせください。

報　告　①：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

報　告　②：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

報　告　③：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

各ポスター：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

運　　営：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＜ご協力いただきましてありがとうございました＞

資　　料

稚内北星学園大学
Wakkanai Hokusei Gakuen University

文部科学省 地(知)の拠点

第4回 地域活動報告会

口頭発表

1. まちなか振興分野

●「まちなかメディアラボ」から見る中心市街地・商店街

中野　窓香（メディア表現指導員）
若原　幸範（情報メディア学部　准教授）

2. 地域観光分野

●造形ワークショップ＆展覧会
「Christmas Exhibition 2015」開催報告

樋口　明日佳（情報メディア学部　情報メディア学科２年）
東雲　恭平　（情報メディア学部　情報メディア学科２年）
MARKOVA KATERINA KONSTANTINOVNA
（情報メディア学部　情報メディア学科２年）

3. 地域教育分野

●地域教育支援と教職としての学び
～無料塾、豊富町「学び」の教室 ウィンターチャレンジから～

阿部　浩幸（情報メディア学部　情報メディア学科４年）
榎本　　薫（情報メディア学部　情報メディア学科４年）
米津　直希（情報メディア学部　講師）

ポスター報告

1. わくほくメディアラボ（図書館）

●わくほくメディアラボ及び学習コンシェルジュの運用状況
高　　渕（特任助教・学習コンシェルジュ）

2. まちなかメディアラボ

●まちなかメディアラボ平成 27 年度の利用状況について
中野　窓香（メディア表現指導員）

※ポスター報告とは、参加者と報告者がポスターに書かれた研究内容を、時間をかけて検討する報告形式です。

稚内北星学園大学は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に選定され、稚内をはじめ宗谷管内の自治体と連携し、地域の課題解決に向けた地域志向研究と「地域貢献支援事業」に取り組んでいます。
これまでの事業の研究成果を確かめるため、地域活動報告会を開催します。

2016.1.26 火

14:30 ～ 16:00　稚内北星学園大学 新館３階中教室（1301）

参加無料です。どなたでも参加できます。

問い合わせ　稚内北星学園大学（COC 事業推進室）　☎ 32 - 7511

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）とは、地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を文部科学省が５年間支援し、地域コミュニティの中核的存在の機能強化を目的としています。

問い合わせ先

稚内北星学園大学

地域創造支援センター　COC 事業推進室（大学事務局総務課）

〒097-0013　北海道稚内市若葉台１丁目 2290-28
ＴＥＬ　0162-32-7511
ＦＡＸ　0162-32-7500
Ｅ-mail info@wakhok.ac.jp

わくほく COC ホームページ
http://coc.wakhok.ac.jp/

COC 推進委員会第４回地域活動報告会実施報告書編集小委員会　委員一覧

佐賀　孝博（副学長／教授／事業推進責任者）
黒木　宏一（講師／COC 事業推進室長）
高　　澍（特任助教／学習コンシェルジュ）
中野　窓香（メディア表現指導員）

第４回地域活動報告会実施報告書
2016（平成 28）年６月 30 日発行

編　　集　COC 推進委員会第４回地域活動報告会実施報告書編集小委員会

発　　行　稚内北星学園大学 地域創造支援センター
〒097-0013　北海道稚内市若葉台１丁目 2290-28
電　話:0162-32-7511（代表）
メール:info@wakhok.ac.jp

無断転載を禁じます。